

【生薬名】 蒼朮 *ATRACTYLODIS LANCEAE RHIZOMA*

【起源植物】 柵ハ<sup>ハ</sup> 柵 *Atractylodes lancea*

【科名】 キク科 *Compositae*



【別名】 サドオケラ (江戸期には佐渡で栽培されたのでこの名がある)

【薬用部分】 根茎

【主成分】 精油 (アトラクトン、アトラクトール)、VA (煎液には含有せず)、VD

【薬性】 気味は苦辛温、帰経は脾胃に属す

【効能】 ●燥湿建脾・祛風湿

●祛湿の重要薬物で、内湿・外湿の両方に使える

●大和本草には『白朮』は脾胃を強くして飲食を進め、虚を補い、汗や瀉を止めるとし、『蒼朮』は汗を發し、風寒湿を去り、気を下し、痰食水を消すと両者の違いを述べてある

●単独では使わず漢方処方に配合して使う、1日量は3～6g

●胃腸症状があまりなく、水分代謝異常からくる浮腫、しびれ、痛みに用いる、白朮は補脾・健胃整腸に用いる点が違う

【出典】 ●朮。一名山薊。味苦温。生山谷。治風寒濕痺死肌。瘰。疽。止汗除熱。消食。作煎餌。久服輕身延年不飢。(神農本草經上品)

●脾を健かにし湿を燥し、汗を發し中を寛げ更に瘴疫を祛る。(薬性歌)

【備考】 ●蒼朮を火の上で燻べ、この煙を湿った室内に充満させると、湿気は一掃され、しかも畳の表もさらさらになるので、昔は梅雨時の湿気取りとして利用していた(細野史郎著「方証吟味」)。昨年の梅雨にこのような使い方をすると買いに来られた方があり、調べたところ、上記の記載を見つけました

●生薬は寒くなると成分の結晶で白くかびの様に覆われます。良品ほどたくさん出ます、又、暖かくなると次第に消失します。初めて生薬に接した時には驚きました。

【処方例】 ●平胃散、二朮湯、半夏白朮天麻湯